

幼小の学びをつなぐ

～接続期カリキュラムの作成に向けて～

大野眞男・今野日出晴* 千葉紅子・渡邊奈穂子・高橋文子・本宮和奈・吉田美奈子・
佐々木由美・川村真紀**, 菅野亨・高室敬・金子祐輔・遠藤勇太・久慈美香子***
*岩手大学教育学部, **岩手大学教育学部附属幼稚園, ***岩手大学教育学部附属小学校

(令和2年3月4日受理)

1. はじめに

幼稚園においては、幼稚園の生活全体を通して、幼児に生きる力の基礎を育むことが求められている。そのため、幼稚園教育の基本を踏まえ、小学校以降の子供の発達を見通しながら教育活動を展開し、幼稚園教育において育みたい資質・能力を育むことが大切である。

新・学習指導要領等では、幼児期の教育から小学校、中学校、高等学校までの教育を含めた学校教育全体を見通し、育成を目指す資質・能力が整理されている。幼児教育では「知識・及び技能の基礎」、「思考力・判断力・表現力等の基礎」、「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱から構成される資質・能力を育むこととされている。さらにこの3つの資質・能力は、遊びを通した生活全体の中で育まれるものであるが、年長児後半に期待される育ちとして、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が位置付けられた。

さらに、幼児期と児童期の教育活動は、双方の教育活動のつながりを見通しつつ、展開することが必要である。そのために連携・接続の体制を作り、課題を共有し、接続を意識した教育課程の編成・実施を行いながら連携を深めていくことが求められている。

2. 本研究にあたって

園内では、幼児の育ちを「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」の視点から振り返り、教育課程や指導計画の見直しに取り組んでいる。

また、昨年度は、幼小交流にかかわる話し合いで、双方の教育課程・指導要領・指導計画等をもとに、幼小の教師間で育ちを共通理解し、接続期のカリキュラム（幼稚園側）のもとになる資料を集めることができた。

今年度は、昨年までの成果を踏まえ、園内研究会において、子供の育ちの読み取りをし、それを既存の教育課程・指導計画と照らし合わせながら、幼小の学びを接続するカリキュラムの作成を目指している。

3. 研究の内容と方法

- (1) 事例研究会・研究保育・保育内容検討会・週案作成等において、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」10項目の視点から、年長児の発達を捉える。
- (2) (1)で捉えたことを、園の教育課程・各月の指導計画と照らし合わせ、育ちの方向性を再確認したり、接続期カリキュラムの在り方を検討したりする。
- (3) 幼小交流活動の打合せ・反省会において、教師間で子供の育ちを共通理解したことを、接続期カリキュラム作成にも生かす。
- (4) (1)～(3)と、他園の教育課程と本園の教育課程を比較検討したことを、接続期カリキュラムの作成に生かす。

4. 実践

- (1) 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」10項目の視点から、年長児の発達を捉える。

5歳児10月の事例より 人のかかわり もののかかわり

【ハロウィンパーティーを開こう】

9月末の運動会において、学年一緒に「SL 銀河の旅」の表現を楽しんだ子供達。その中でも「白鳥座」の表現に取り組んだ女兒達は、羽に使った布のふわりとしたやわらかな素材を



気に入って、毎日自分達で身に付けて遊んでいた。運動会後も、みんなで取り組んだ余韻に浸るかのようになり、身に付けて踊り始める姿があった。そんな中「この羽、ハロウィンでもつけたいな。」とつぶやく子がいた。すると、「あと1か月でハロウィンだもんね」とハロウィンの話題になり、子供達は小さなお化けを作って壁に貼ったり、ハロウィンのかぼちゃの絵を描いたり、仮装のための衣装を作ったりし始めた。そんな姿から、「ハロウィン＝仮装・かぼちゃ」というイメージがあることを感じ取った。

数日経つと、作った衣装を身に付けながらダンスを踊ったり、鍵盤ハーモニカを演奏したりする姿が見られてきた。そこで、ホールのステージ付近を演奏や踊りの場とすることで、「いつもの場所」という認識ができ、友達同士集まって鍵盤ハーモニカで知っている曲を吹くようになった。また、子供達から「ハロウィンコンサート」「お菓子作り」「お化け屋敷」「ランタンの落書き」等と、ハロウィンのイメージがますますつぶやかれるようになった。その会話から、子供達のイメージするハロウィンが「楽しそうなパーティーやコンサート」であること、そして、昨年の年長組数人がこの時期に開いてくれたハロウィンパーティーのイメージが共通の姿であることも感じた。

【読み取った幼児の姿】

◎人との関わり

- ・運動会に学年みんなで取り組み、表現を作り上げたという達成感を感じ、みんなと一緒に作ったことから、クラスの友達と気持ちのつながりが深まっている。 **自立心・協同性**
- ・自分達がやり遂げ、満足した体験は、再現して楽しむ意欲にもつながっている。 **自立心**
- ・友達のつぶやきを互いに受け止め合う雰囲気があり、そこから遊びが始まっている。 **協同性**
- ・「ハロウィン」という共通のイメージの中で「ハロウィンパーティー」という目的を見出しながら遊びを進めようとしている。 **協同性**

- ・昨年の体験をもとに自分達も小さい組を呼んで楽しんでもらいたいという思いを持っている。

社会生活との関わり

◎ものとの関わり

- ・自分達の表現にぴったり合う心地よさを感じながら、白鳥の羽を繰り返し使っている。 **豊かな感性と表現**
- ・知っている曲を友達と一緒に鍵盤ハーモニカで吹くことを楽しんでいる。 **豊かな感性と表現**
- ・ハロウィン＝かぼちゃやお化けというイメージから、自分なりの衣装を作って楽しんでいる。 **豊かな感性と表現**
- ・ハロウィンに関わるそれぞれのイメージを言葉で伝え合いながら自分たちの共通のイメージを作っている。 **言葉による伝え合い**

演奏するメンバーは、「ハッピーバースデー」を吹くことにした際、「難しくない?」と問いかける子に対し、「音を書いてあげるよ」「一緒にやるのが楽しいんだから」と教え合うようになってきた。教師も「ハロウィンチームのみんなでやると楽しいね」とつながりを大事にしながらかかわった。そのうちに「誕生会でも、「ハッピーバースデー」を演奏したい」というアイデアが生まれ、10月の誕生会でクラスみんなに聞いてもらい、自分たちの演奏に少し自信を持つことができた。

そんな様子がクラスみんなにも伝わり、ハロウィンの飾りを作ったりお化けカボチャの絵を描いたりする子供達もいた。そこで、クラスみんなに絵本「ハロウィンってなあに?」を読み聞かせすると、かぼちゃのランタンを作りたいと言いだした3人組がいた。絵本に書いてあるように、本物のかぼちゃを使って一緒に作りたいのだと感じ、かぼちゃを用意した。包丁を使うところは教師がやり、顔の部分は、子ども達のアイデアで、目や口の形のシールを貼って、その周りを千枚通



して少しずつ穴を開け、くりぬいた。千枚通しを使う順番を決めて互いに見守りながら道具を使ったり、出てきたかぼちゃのかけらを集めたりと、自然と役割ができ、3人でランタンを作り上げていった。

【読み取った幼児の姿】

◎人とのかかわり

- ・演奏ができるようになりたいという共通の目的に向かって教え合おうとする。 **協同性**
- ・目的に向かって取り組んできたことをクラスの仲間に認められ、自信を持つ。 **自立心**
- ・一つのランタンを作るために、自然と役割分担をして協力して作る。 **協同性**

◎ものとのかかわり

- ・互いに相手に受けて入れてもらえる安心感の中で、「難しいよ」「音を書いてあげるよ」のように、自分の意見を相手に伝え合い、遊びを進めている。 **言葉による伝え合い**
- ・絵本で見たランタンのイメージから、どうやったら同じものが作れるか考え、工夫している。 **思考力の芽生え**
- ・目的に応じて千枚通しなどの道具を選び、使っている。 **思考力の芽生え**

【その後の展開】

演奏、ランタン作りなど、それぞれが楽しんでいることがクラスみんなに伝わり、遊びのイメージの糧になってほしいという思いを込め、ハロウィンに関わる絵本を読んだり、子ども達で作ったカボチャのランタンに火を灯し、みんなでじっと火を見つめたりする時間を作ったりした。そんな体験を重ねる中で、他の子供達の間でも「パーティーを開こう」ということが共通の目的になり、少しずつ準備を進めていくことができた。

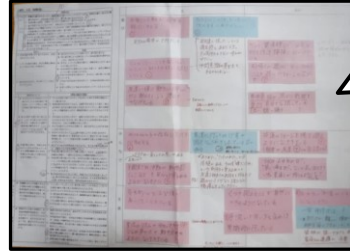


(2) (1) で捉えたことを、園の教育課程・各月の指導計画と照らし合わせ、育ちの方向性を再確認し、接続カリキュラムの在り方を考える。

研究会で事例を読み取ったことを踏まえ、月末の学年会等において、本園教育課程(5歳児Ⅲ期)

や各月の指導計画と照らし合わせて、子供の育ちを確認した。

【学年の反省に使う指導計画振り返り表】



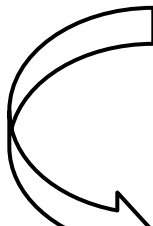
- ・その月の振り返りをする。
- ・【付箋】赤が成果、青が改善点
- ・その月の子どもの姿を書き、学年内で振り返る。その際、月指導計画のどの部分とつながるか検討し、保育に反映させていく。

事例研で出てきた姿を、教育課程に照らし合わせて見直すと、子供達が夢中になって遊びを作り出している場面には、教育課程で目指している姿がそれぞれに表れていることが分かった。例えば、事例1「ハロウィンパーティーを開こう」では、これらの姿は、運動会における「SL 銀河の旅」での表現から「ハロウィンパーティー」へとクラスみんなで体験を重ねることを通し、より育っていく姿であることも確認することができた。また、本稿の事例には載せていないが、同じような「友達のよさ」を認める場合でも、卒園を間近に控えた2月には、1年の自分達の成長を振り返り、より深いつながりの中で子供達が話し合いをしていることも分かった。そのつながりが、修了式に向けての取り組みの中で、一人一人に合った言葉を見つけて話すことにもつながっていく。

このように、遊びや生活において、体験が重なりつながりあっていく子供の具体的な姿を、カリキュラム上に表すことができるかどうか検討した。実際、年長組の子供達は、このハロウィンパーティーで体験し培った姿((1)参照)を糧にして、その後の取り組み(たんぼぼ・きく劇場(11月)、クリスマスパーティー(12月))に生かしながら生活を積み上げてきている。今年度の年長組後半の生活の中で、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を特に意識して取り組んだ活動がつながり合い、子供達が育っていく様子を、本園の教育課程をもとに、次のように表にまとめてみた。

本園 5 歳児の教育課程 (一部)

目標 (計画)	目標 (計画)	目標 (計画)
<p>1 社会性</p> <p>友だちや先生と仲良く遊ぶことができるようになる。</p> <p>2 生活習慣</p> <p>生活習慣を身につけることができるようになる。</p>	<p>1 社会性</p> <p>友だちや先生と仲良く遊ぶことができるようになる。</p> <p>2 生活習慣</p> <p>生活習慣を身につけることができるようになる。</p>	<p>1 社会性</p> <p>友だちや先生と仲良く遊ぶことができるようになる。</p> <p>2 生活習慣</p> <p>生活習慣を身につけることができるようになる。</p>



岩手大学教育学部附属幼稚園 接続期カリキュラム

5 歳児・10月～3月	
発達の過程	友達と協力し合って、遊びや生活を進めていくようになる時期
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○一人一人が自分なりの力を発揮するとともに、互いのよさを認めたり生かしたりしながら遊びを進めるようになる。 ○友達との関わりを深め、共通の目的に向けて協力して取り組み、やり遂げた喜びや仲間との一体感を味わう。
人とのかかわりの体験	<p>自立心</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の成長を感じ、自分に自信を持ったり、可能性を広げたりしていく。 ・自分なりの課題に向かって、根気強く取り組み、やり遂げた満足感を味わう。 ・年中児への当番活動などの引継ぎを通して、終了することへの自覚を高めていく。 <p>協同性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共通の目的に向かって、役割を分担し、協力してやり遂げた満足感を味わう。 ・ルールを確かめ合ったり作ったりしてルールを共有して遊びを楽しむ。 <p>適応性・規範意識の芽生え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達とのトラブルや生活の中での問題を先生や友達と一緒に考えながら解決していくこととする。 ・様々な素材、道具、用具を使って、紙したり、考えたり、工夫したりしながら、自分なりにイメージすることを実現していく。 ・競争場面で自分に向かい、相手を受け入れたりしながら自分の気持ちを調整していくことができるようになる。
もののかかわりの体験	<p>社会生活との関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生、中学生、教育実習生との交流を通して生活を広げていく。 ・地域の伝統芸能に触れて、親しみを感じたり、それら遊びの中に取り入れれたりする。 <p>健康な心と体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大勢の友達とチームで競い合うことを楽しむ。 ・生活に見通しを持ち、状況に応じた生活を進めようとする。 ・小学生になることへの期待を持ち、意欲的に遊んだり生活したりする。 ・災害時緊急時の適切な行動の仕方が分かり、安全に気を配り状況に応じて安全な行動がとれるようになる。 <p>思考力の芽生え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊びの目的に合わせて道具や物を選んだり、使ったりする。 ・様々な素材、道具、用具を使って、紙したり、考えたり、工夫したりしながら、自分なりにイメージすることを実現していく。 ・様々なことやもののかかわりの中で、知的好奇心や探求心を持ち、気づいたり考えたり予想したりすることを楽しむ。 <p>自然との関わり・生命尊重</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然との関わりの中で、季節の変化などを感じ取ったり、身近な事象への興味関心を高めたりしていく。 <p>言葉・図形・文字・算数等の関心・発見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読んだり、書いたり使ったりすることを通して、文字等への関心・感覚が高まるようになるとともに、それらを通して遊びや生活を豊かにしていく。 <p>言葉による伝え合い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の話を注意して聞いたり、自分の思いや考えを分かるように話したり、話し合ったりするなどして、考えを深め、言葉を通して先生と友達と心を通わせるようになる。 <p>豊かな感性と表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊びや生活の中で感じたことや考えたことなどを言葉や動きなどで楽しんだり、思いのままに描いたり、作ったり、演じたりなどして表現し、友達と一緒に工夫して創造的な活動を積み重ねていく。
行事	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会 ・遠足 ・サツマイモ収穫・やきいも ・教育実習 ・附中ランド ・保育参観 (げきじょう) ・小学校連絡入学面接 ・もちつき ・レコーディング ・神楽鑑賞会 ・お雑作り ・お茶会 ・たんぽぽきくランド ・会食会 ・修了式
主な遊び・活動	<ul style="list-style-type: none"> ・リレーごっこ ・なわとび ・ハロウィンごっこ (※事例1) ・木工 ・楽器遊び (ザイロホーン、鍵盤ハーモニカ) ・こま回し ・リリアン編み ・音楽やお話に合わせた表現活動を楽しむ ・3すくみ鬼 ・ドッジボール ・当番活動の引継ぎ ・修了文筆作り ・たんぽぽきくランド ・カルタ作り (※事例2) ・書遊び ・お正月遊び

このような形にまとめたものを本園接続期カリキュラムの原案とした。図に「※事例1」とあるように、具体的な事例があるので、カリキュラムをどのように実践しているのかが小学校以降へつながりやすくなると考え、右記のようなA4サイズの事例を接続期カリキュラムに付け足していくことにした。現在、2月のカルタ作りを始め、事例をさらに増やしているところである。また、10月～3月のまとまりを、さらに10月～12月、1月～3月に分けることで、体験の深まりがより分かりやすくなるのではないかと考え、園内で形式を検討中である。

※事例1 「ハロウィンパーティー」(5歳児10月)

この時期のねらい

- 友達や先生と仲良く遊ぶことができるようになる。
- 生活習慣を身につけることができるようになる。
- 友達との関わりを深め、共通の目的に向けて協力して取り組み、やり遂げた喜びや仲間との一体感を味わう。

ねらい

- ・自分なりの課題に向かって、根気強く取り組み、やり遂げた満足感を味わう。
- ・年中児への当番活動などの引継ぎを通して、終了することへの自覚を高めていく。
- ・共通の目的に向かって、役割を分担し、協力してやり遂げた満足感を味わう。
- ・ルールを確かめ合ったり作ったりしてルールを共有して遊びを楽しむ。
- ・友達とのトラブルや生活の中での問題を先生や友達と一緒に考えながら解決していくこととする。
- ・様々な素材、道具、用具を使って、紙したり、考えたり、工夫したりしながら、自分なりにイメージすることを実現していく。
- ・競争場面で自分に向かい、相手を受け入れたりしながら自分の気持ちを調整していくことができるようになる。
- ・小学生、中学生、教育実習生との交流を通して生活を広げていく。
- ・地域の伝統芸能に触れて、親しみを感じたり、それら遊びの中に取り入れれたりする。
- ・大勢の友達とチームで競い合うことを楽しむ。
- ・生活に見通しを持ち、状況に応じた生活を進めようとする。
- ・小学生になることへの期待を持ち、意欲的に遊んだり生活したりする。
- ・災害時緊急時の適切な行動の仕方が分かり、安全に気を配り状況に応じて安全な行動がとれるようになる。
- ・遊びの目的に合わせて道具や物を選んだり、使ったりする。
- ・様々な素材、道具、用具を使って、紙したり、考えたり、工夫したりしながら、自分なりにイメージすることを実現していく。
- ・様々なことやもののかかわりの中で、知的好奇心や探求心を持ち、気づいたり考えたり予想したりすることを楽しむ。
- ・自然との関わりの中で、季節の変化などを感じ取ったり、身近な事象への興味関心を高めたりしていく。
- ・読んだり、書いたり使ったりすることを通して、文字等への関心・感覚が高まるようになるとともに、それらを通して遊びや生活を豊かにしていく。
- ・相手の話を注意して聞いたり、自分の思いや考えを分かるように話したり、話し合ったりするなどして、考えを深め、言葉を通して先生と友達と心を通わせるようになる。
- ・遊びや生活の中で感じたことや考えたことなどを言葉や動きなどで楽しんだり、思いのままに描いたり、作ったり、演じたりなどして表現し、友達と一緒に工夫して創造的な活動を積み重ねていく。

この事例のねらい

- ・友達や先生と仲良く遊ぶことができるようになる。
- ・生活習慣を身につけることができるようになる。
- ・友達との関わりを深め、共通の目的に向けて協力して取り組み、やり遂げた喜びや仲間との一体感を味わう。

この事例のねらい

- ・友達や先生と仲良く遊ぶことができるようになる。
- ・生活習慣を身につけることができるようになる。
- ・友達との関わりを深め、共通の目的に向けて協力して取り組み、やり遂げた喜びや仲間との一体感を味わう。

この事例のねらい

- ・友達や先生と仲良く遊ぶことができるようになる。
- ・生活習慣を身につけることができるようになる。
- ・友達との関わりを深め、共通の目的に向けて協力して取り組み、やり遂げた喜びや仲間との一体感を味わう。

この事例のねらい

- ・友達や先生と仲良く遊ぶことができるようになる。
- ・生活習慣を身につけることができるようになる。
- ・友達との関わりを深め、共通の目的に向けて協力して取り組み、やり遂げた喜びや仲間との一体感を味わう。

(3) 幼小の教師間で接続について共通理解する

1) 幼小交流活動の計画において

年4回の交流会前に、年長担任と1年生担任が集まって子供の姿を共有する話し合いをし、それらをもとに、交流活動の計画を立てている。その際、幼稚園からは、(1)(2)で述べてきたような「この時期の幼児の姿」を、子供のエピソードをもとに「幼児期の終わりまでに育ててほしい10の姿」を念頭に置いて、具体的に伝えるようにした。さらに、教育課程(5歳)や月指導計画をもとに、その時期に合わせた活動内容を提案し、小学校の教師と子どもの姿を共通理解できるようにした。その話し合いの一部を紹介する。

第3回の交流会(11/6)に向けての話し合い

【本園11月の指導計画のねらい】

- ・自分なりのめあてに向かって考えたり試したり工夫したりしながらやり遂げた喜びを味わう。
- ・友達と共通のイメージや目的を見出しながら遊びを進めていく。

まず、幼小の教師双方で一人一人の今の子供の姿について話し合いを行った。前回までの交流や子供達の個々の育ちを見ていて、気になることやねらいにせまる姿に近づけるための教師のかかわりなど、交流当日の子供達の姿をイメージして話

をすることで、具体的に教師の援助の方向性が見えてきた。

例えば、左記の指導案のねらいにあるように、「ペアの友達と意思を出し合いながら遊ぶ」という姿はどういう姿なのか、話し合った。クラスの子供の〇〇ちゃんだったら、こういう姿ではないか、と思い描きながら話すことで、幼小の教師間で、子供の育ちについての共通理解を深めることができた。その際、幼稚園の教師は、(2)の接続カリキュラム案の「道徳性・規範意識の芽生え」に関わる「友達のよさを認めたり、考えを受け入れたり、相手の気持ちに合わせて自分の出方を調整したりしながら遊びを進めていく」という部分について、接続期カリキュラム案の記載内容をより自分達のものとして理解することができた。また、教材について、交流する時間の中でどのようなものが出来上がっていくのか、予想しながら検討することができ、材料の準備を進めていくことができた。左記の指導案は、このような話し合いを経た中で幼小の教師が一緒に作成したものである。

2) 交流活動の反省会において

一緒に話し合うことにより、学びを支える教師の関わり大切さを共通理解することができ、また、「幼児期の終わりまでに育ててほしい10の姿」について、具体的なエピソードをもとに話していたからこそ、双方の教師間で共有されてきているのを感じた。ここで一緒に見取った子供の育ちも、11月の指導計画や教育課程(5歳児Ⅲ期)と照らし合わせ、接続期カリキュラムの作成につなげることにした。

【反省会で話し合われた話題より】

- ・ねらいを達成した姿とはどんな姿かを具体的に話し合ったことで、子供の行動の背景を考えるようになったり、かかわり方を考えるようになったり、子供達の育ちを支えるかかわり方につながった。

第3回幼小交流活動指導案

日時：令和元年11月29日(木) 12:50~14:00
場所：附属幼稚園
参加：附属幼稚園1年生、附属小学校1年生

1. ねらい

(目的) 児童が相手の思いを受け止めたり、自分の考えを伝えたりしている姿から刺激を受け、やりとりしながら遊びを楽しむとする。
(見通し) 相手の思いを受け止め、自分の思いを出しながら、意見を交えてやりとりをし、より遊びが楽しめるようになるように意識して活動に取り組む。
(時・用) ペアの友達と意思を出し合いながら遊ぶと共に、互いに楽しみをもつ。

場所	クラス	担当(先生)	担任(先生)	担任(先生)
〇児童入り口	たんぽぽ組テラス	もも組テラス	ホール入り口	
〇荷物置き場	さくら組廊下の棚の上	もも組廊下の棚の上	ホールのステージ	
〇活動場所	たんぽぽ組・さくら組	もも組・つばき組	ホール	

時間	内容	留意点・配慮・教師の配慮・援助
12:50	〇各組別に集まる。 自分のペアを確認して、一緒に居る。	・幼児は自分よりペアと一緒に居るように声かけている。
13:00	1 自己紹介 〇「ななよしレバ」胸に張り、自己紹介をする。	・久しぶりに会うペアの子と一緒に座り、自己紹介をしたり、話をしたりすることで、緊張感を和ませ、次への活動に期待感を持てるようにする。
13:05	2 活動の説明 〇教師からの説明を聞き、活動のイメージをもつ。	・教師が遊びのきっかけとなるイメージを遊びかけつつも、やりたいことを見つけていけるようにする。
13:35	3 活動のねらいを知る ペアの友達と力を合わせて、どんぐり転がしコースを完成させる。 〇教師の説明を聞き、活動のイメージをもつ。	・ペアの友達と一緒に考えを出し合って行うことをイメージできるような遊びかけをしていく。
13:45	4 教材(牛乳パック・ラップ・空き箱など)を使ったどんぐり転がしコース作り ・それぞれが制作してきたものを集め、互いに考えを出し合いながら、つなげたり、新たなコースを作ったりしながら、工夫して遊びに取り組み。	・必要に応じて、教師も仲間の一員としてかわり、アイデアを伝えたり、ペアの友達とつながり合ったりしていくような援助をしていく。 ・席についているところには、教師が目をつないでやりとりしていく。 ・教師は、子ども同士がどのように考えを出し合ったりかかわり合ったりしているのを見取っていく。
13:50	5 活動の交流をする。 自分の作ったものやクラスの友達が作ったコースに挑戦して遊ぶ。	・自分達の作ったことに満足感をもったり、互いの作ったものを見て認め合ったりできるような状況をつくる。 ・それぞれ2名程度ずつ感想を話し、活動を振り返る。
14:00	6 感想の交流をする。 ・1年生から 年長児から 先生から	・交流について振り返るように、教師がやる。 ・道徳からは、作っていく過程の中で、互いに思いを出し合いながら、進もうとかがわっていたペアの様子に驚いて話していく。 ・次回の活動に期待をもてるようにする。
7	付2枚をきて集まり、席を準備をし、挨拶をする。	

・共に教材研究をすることで、ねらいにせまる子供の姿に近づいたための工夫について考えることができた。



(4) 他園の教育課程も参考にしながら、接続期カリキュラムの編成をする

1) 現在の教育課程を改めて見直す

他園（国立大学附属幼稚園）の教育課程を手分けして読み込み、園内研究会において、書かれて

いる内容や形式について検討した。他園の教育課程と比較することで、本園の教育課程を改めて見直し、私



達が見通しをもって保育をしていくために、どのような形の教育課程がよいか意見を出し合った。

<p>他園のよさ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3歳～5歳が一覧表になっていたり、1期・Ⅱ期…というのが5歳まで続きになったりして、年齢間のつながりを意識しやすい。 ⇒本園も各年齢を3期ずつに分けていたが、3歳～5歳まで続けてⅠ期～Ⅸ期とすることで、つながりをより意識できるのではないか。 ・その期に行う主な活動や遊びなどが写真等で明記されていて、具体的にイメージしやすい。 ⇒本園の教育課程の下欄に「主な遊びや活動・行事」などの欄を設けてはどうか。
<p>本園のよさ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達の過程が示されているのがよい。 ・10の姿が体験の中に示されているので、教育要領にある10の姿がイメージしやすい。 ・各学年見開き1ページ分なので学年の1年を見通せる形が分かりやすい。

その際、本園の教育課程に取り入れられるところ・本園の教育課程のよさを整理した。

2) 接続期カリキュラムの作成

・(1)～(4)までの各種研究会で学んだり整理したりしてきたことをもとに、原案としての接続カリキュラムとその具体となる事例のいくつかを、3月までに作成する予定で進めている。

5. 成果と課題

(1) 成果

・これまでの園内研究会や幼小交流に向けての協議を通し、教師間で共通理解したことをもとに接続カリキュラムの原案を事例と共に作成する

ことができた。

(2) 課題

- ・今年度の成果をもとに、来年度は実践しながら接続期カリキュラム（幼稚園側）の内容の検討を重ね、カリキュラムに付随する事例を多く集めていく。さらに、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の具体を明らかにしていく。
- ・幼稚園で今年度作ったものを元に、小学校側の接続期カリキュラムの作成に当たり、これまで幼小交流活動等で重ねてきたつながりをもとに、協力し合っていく。

【参考・引用文献】

- 1) 幼児教育じほう 2017. 5 より
無藤 隆「論説 幼児教育の新しい姿から小学校教育の接続を見通す」
奈須 正裕「論説 幼児教育と小学校教育の接続—学びの履歴をつなぐとは—」
- 2) 初等教育資料 2019. 10
- 3) 平成 29 年度広島大学附属三原学校園研究紀要
- 4) 平成 30 年度附属幼稚園研究紀要
- 5) 平成 30 年度花巻幼稚園公開研究会資料
- 6) 平成 30 年度岩手県国公立幼稚園・こども園教育研究大会 第3分科会資料
- 7) 令和元年度岩手県国公立幼稚園・こども園教育研究大会 第3分科会資料
- 8) 幼稚園教育要領解説
- 9) 小学校学習指導要領 生活科解説